

【実施日】 令和5（2023）年8月22日（火） 13：30～15：35

下野市庁舎 304会議室

【参加者】 22名

自立支援協議会就労部会、市内施設連絡会、相談支援事業者連絡会、  
栃木県農政課、市町農政課、県インターン生、事業所実習生、等

【回答者】 18名

## ◆参加者対象アンケート結果

設問1 本日の農福連携・ユニバーサル農業の研修会の内容はいかがでしたか。

1 良くなかった 2 やや良くなかった 3 普通 4 やや良かった 5 良かった

・改善した方がよい点

◇ 良かった 13名

・農福連携で作業されている利用者さんの声も聞けるとよかった。

・もう少し深いところまで話が聞けると良かった。出荷先（販路の話）、経営の話、賃金の話など。

◇ やや良かった 2名

◇ 普通 2名

◇ やや良くなかった 1名

◇ 良くなかった 0名

設問2 今回の研修会で、感じたことをご記入ください。

※類似回答については集約しています

- ・県、農家、福祉事業所の立場からの話を伺い、農福連携の現状や課題をよく理解できた。
- ・農福連携の詳細を知る機会になり大変よかった。今日伺った話を事業所でも伝えたい。
- ・農福連携は大変でハードルが高いイメージだったが、研修に参加し、チャレンジしてみたいと感じた。
- ・支援者としての永井さんのキャラクターも地域を繋ぐ要因だと思った。
- ・互いの信頼関係が継続のカギとなる。
- ・具体的に工房つばさと若林ファームとの連携について伺い、参考になった。
- ・技術の習得に1年以上かかるが長い目で見ているという点に農家さんの人柄が伺えた。
- ・農福連携により工賃が大幅にアップしていることに驚いた。
- ・季節による増減という農家ならではの課題も工夫次第でクリアできると感じた。
- ・農業者側が求めるものと福祉事業所側が求めるものとのすり合わせが大切であると感じた。
- ・利用者様の障がいのかたちは一人ひとり異なるので、そこが難しいと思った。

（裏面に続く）

- 県内では、思っていたよりも多くの農福連携が行われていることがわかった。
- 一般雇用の代替として、農福連携を進めていけるとよい。
- 市内の小中学校の給食に使い、食育や福祉教育、優先調達の活用に広げられるとよい。
- 今後ますます地産地消が増えるとよい。農業は衰え気味だが、農福連携で活性化するとよい。
- 福祉業（介護・高齢者含む）は正規職員の給与が低く、就職者が少ない。農福連携で収入アップを図りしっかりした給与を求められるようになるとうい。
- 農業についてあまり学ぶ機会がなかったので、福祉との繋がりがあることに驚いた。
- 参加者と一体感を感じた。
- 次回は農家とB型事業所と参加者を絞った企画も面白そう。

設問3 次回、取り上げて欲しい企画があればご記入ください。

- 農福連携のマッチングを高めるため、このテーマで定期開催するとよい。

設問4 ユニバーサル農業に興味はありますか。

- ◇ ある 14名
- ◇ ない 1名
- ◇ どちらでもない 2名
- ◇ 無回答 1名